



平成 17 年 11 月 8 日

各 位

会 社 名 アルゼ株式会社
代表者名 代表取締役社長 阿南一成
(J A S D A Q ・ コード 6 4 2 5)
問合せ先 取 締 役 堀 義人
電 話 03-5530-3055(代表)

当社子会社（株式会社セタ）の中間期・通期業績予想の修正及び特別損失の発生に関するお知らせ

当社子会社である株式会社セタは、平成 17 年 8 月 8 日付同社「平成 18 年 3 月期第 1 四半期財務・業績の概況（連結）、特別損失の発生及び業績予想の修正（連結・個別）に関するお知らせ」にて発表いたしました同社の平成 18 年 3 月期（平成 17 年 4 月 1 日～平成 18 年 3 月 31 日）の中間期及び通期業績予想につきまして、別添資料のとおり修正いたしましたので、お知らせいたします。

以 上



平成 17 年 11 月 8 日

各 位

会 社 名 株式会社セタ
代表者名 代表取締役社長 河合 宏昌
(J A S D A Q ・ コード 4 6 7 0)
問合せ先 経営企画室長 田中宗一郎
電 話 03-3599-2520(代表)

平成 18 年 3 月期中間期・通期業績予想の修正及び特別損失の発生に関するお知らせ(連結・個別)

当社は、平成 17 年 8 月 8 日付「平成 18 年 3 月期 第 1 四半期財務・業績の概況(連結)、特別損失の発生及び業績予想の修正(連結・個別)に関するお知らせ」にて発表いたしました平成 18 年 3 月期(平成 17 年 4 月 1 日～平成 18 年 3 月 31 日)の中間期及び通期業績予想につきまして、下記のとおり修正いたしましたので、お知らせいたします。

記

1. 平成 18 年 3 月期業績予想の修正

(1) 中間期(平成 17 年 4 月 1 日～平成 17 年 9 月 30 日)

<連結>

(単位:百万円)

	売 上 高	経 常 利 益	当 期 純 利 益
前 回 予 想 (A)	1,067	△ 447	△ 573
今 回 修 正 (B)	794	△ 445	△ 981
増 減 額 (B - A)	△ 273	2	△ 408
増 減 率	△ 25.6%	—	—
(参考)前年同期実績	899	△ 132	△ 176

<個別>

(単位:百万円)

	売 上 高	経 常 利 益	当 期 純 利 益
前 回 予 想 (A)	1,038	△ 453	△ 578
今 回 修 正 (B)	764	△ 453	△ 990
増 減 額 (B - A)	△ 274	0	△ 412
増 減 率	△ 26.4%	—	—
(参考)前年同期実績	875	△ 140	△ 184

(2) 修正理由及び特別損失の発生

当社は、本年第 2 四半期より遊技ホール向けプリペイドカードシステムの直販体制を整備し、営業活動を開始いたしました。その結果、第 1 四半期終了時点では 58 店舗であった当社製システムの導入店舗数は、当中間期終了時点では 99 店舗に増加致しております。しかしながら、9 月に設置完了した店舗のうち、当社との加盟店契約開始時期が 10 月に遅れる店舗が 4 店舗発生したことにより、当該店舗に対する売上計上時期を下期へ繰り延べた関係上、当中間期の売上高約 2 億円が当初の予想から減少いたしました。

また、当社は、遊技ホールのレイアウト上搬送システムの設置が困難な壁島に対応する機種として、紙幣識別機内部に紙幣を収納するカードユニットを本年 4 月に発表、市場導入を開始いたしました。市場導入開始以降、当社の予想と異なり、全台に設置を希望するホールが多数ございましたことから、全台に設置、導入いたしましたところ、一部の機能において全台設置に対応しきれていないことが判明いたしました。設置、導入済みカードユニットの機能面での充実を早急にはかり、今後益々増加する需要に対応した安定的な製品供給体制を確立するため、本製品の緊急かつ抜本的な改良を実施することとし、第 3 四半期以降に改良品を市場に導入することといたしました。本改良の実施に伴い、研究開発費が増加したのに加え、従来の紙幣収納型カードユニットで使用していた金型、一部の部材及び開発費を当中間期において一括して除却したため、約 208 百万円の製品改良対策費及び固定資産除却損約 57 百万円を特別損失として計上することといたしました。

更に、当中間期に計上を見込んでいた業務用ゲーム機基板在庫等のたな卸資産評価損の追加を約 62 百万円、固定資産減損額の追加を約 49 百万円、及び貸倒引当金の繰入れを約 16 百万円行い、特別損失として追加計上することといたしました。

以上の結果、中間期の連結業績は前回予想より、売上高は 273 百万円減少し、当期純損失は 408 百万円悪化する見通しとなりました。

(3) 通期（平成 17 年 4 月 1 日～平成 18 年 3 月 31 日）

<連結>

(単位：百万円)

	売上高	経常利益	当期純利益
前回予想(A)	4,513	251	15
今回修正(B)	4,513	251	△ 343
増減額(B - A)	0	0	△ 358
増減率	0.0%	0.0%	—
(参考)前年同期実績	2,971	251	66

<個別>

(単位：百万円)

	売上高	経常利益	当期純利益
前回予想(A)	4,456	239	4
今回修正(B)	4,456	239	△ 354
増減額(B - A)	0	0	△ 358
増減率	0.0%	0.0%	—
(参考)前年同期実績	2,917	229	45

(4) 修正理由

当第 3 四半期より汎用用途に改良した紙幣収納型カードユニットを主力製品として市場に投入し、積極的な受注活動を行うことにより、売上高および経常利益に関しましては、平成 17 年 8 月 8 日付「平成 18 年 3 月期 第 1 四半期財務・業績の概況(連結)、特別損失の発生及び業績予想の修正(連結・個別)に関するお知らせ」にて発表いたしました通期業績予想を達成する見込みでございます。

しかしながら、紙幣収納型カードユニットの改良開発に伴う費用発生、及び固定資産減損額増加等当中間期に発生した特別損失を挽回するまでには至らず、通期の業績予想も修正することといたしました。

今後は、プリペイドカードシステムの販売活動を積極的に展開することに加え、購買・製造管理体制の強化を親会社であるアルゼ株式会社の協力を得て推進し、より一層のコストダウンを実現することにより収益力の向上をはかってまいります。

以上